

今後の「図書館と県民のつどい埼玉」 の在り方

— 令和8年1月27日 —

「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会

目 次

1 検討の趣旨	3
2 経過	4
3 これまでの「図書館と県民のつどい埼玉」.....	5
4 現状分析	
(1)参加者	6
(2)組織	7
(3)会場	8
(4)予算	9
5 委員からの主な意見	
(1)つどい趣旨	10
(2)ターゲット(参加者)	10
(3)組織	11
(4)会場	11
(5)予算	12
(6)開催頻度	12
(7)記念講演	12
(8)その他	13
6 今後のつどい	14
(1)ターゲット	14
(2)組織	14
(3)会場	15

(4)予算	15
(5)記念講演	15
(6)中学生のビブリオバトル	16
(7)こども読書活動交流集会	16
7　まとめ	17
8　アンケート実施結果	18
(参考)	
○ 検討委員会要綱	34
○ 図書館と県民のつどい埼玉 2025 趣旨	36
○ これまでの「図書館と県民のつどい埼玉」開催状況	37
○ 「図書館と県民のつどい埼玉 2025」参加者アンケート結果	43

注 「4 現状分析」には令和7年度分は検討後のため反映させていない。

1 検討の趣旨

「図書館と県民のつどい埼玉」は平成19年度から実施している県内最大級の図書館イベントである。現在、主催団体は埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会及び埼玉県高等学校図書館研究会であり、後援として埼玉県大学・短期大学図書館協議会の御協力をいただいている。18回を数え、運営方法等の課題も見えてきたため、主催団体等で構成する検討委員会を設置し、今後のつどいについてより効果的・効率的な実施を検討することとした。

2 経過

開催・発出日	内 容
令和 6 年 6 月 8 日	「県主催行事等の開催場所についての選定基準」県民生活部 令和6年度以降、継続して県が主催する行事等の開催場所の選定にあたっては、単に交通等の利便性や集客性等を理由に選定することなく、地域バランスを考慮し、以下の基準で決定するよう府内に徹底する。
令和 7 年 2 月 14 日	「図書館と県民のつどい埼玉 2024」第3回企画委員会 協議事項 今後の「図書館と県民のつどい埼玉」事業について 令和7年度のつどい事業は「検討のための期間」として休止を提案。縮小開催の意見が出る
令和 7 年 2 月 21 日	図書館と県民のつどい埼玉事業の今後について【案】(メール照会) 回答期限 2 月 28 日(金) 企画委員に対して令和 7 年度は「記念講演」と「中学生のビブリオバトル」を休止としての縮小開催の見直し案を提示。 「中学生のビブリオバトル」は実施の意見が出される
令和 7 年 3 月 11 日	令和7年度の図書館と県民のつどい埼玉事業について(SALA メール送信) 令和7年度は事業を縮小して開催、並行してつどい事業の方向性を検討及び 令和8年度以降は会場を桶川市以外とし、事業規模を令和7年度程度で実施 することを伝える。記念講演休止の場合、集客が難しいため参加校の減少などの意見が出される
令和 7 年 3 月 11 日	今後の「図書館と県民のつどい埼玉事業」について(埼団協常任理事会 議事)
令和 7 年 3 月 12 日	次年度以降の体制について(第3回ビブリオバトル実行委員会) 中学生のビブリオバトル休止について賛成、反対のそれぞれの意見が出される。
令和 7 年 3 月 28 日	今後の「図書館の県民のつどい埼玉事業」について(通知) 埼玉県学校図書館協議会会长・埼玉県高等学校図書館研究会会长あて 両団体に「記念講演」を除く企画を実施する縮小開催及び今後のつどい検討についての協力を文書で依頼 今後の「図書館の県民のつどい埼玉事業」について 企画委員あてメール送信
令和 7 年 5 月 28 日	「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会(案)について(埼団協理事会)
令和 7 年 6 月 24 日	「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会(案)について(埼団協総会)
令和 7 年 7 月 31 日	第 1 回「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会(オンライン) 現状について情報共有及び課題の共通理解。アンケート原案の提示
令和 7 年 8 月 5 日	アンケート案について各委員への意見照会(8 月 19 日〆切)
令和 7 年 8 月 29 日	各委員への素案照会(9 月 19 日〆切)
令和 7 年 9 月 2 日	アンケート実施(9 月 26 日〆切)
令和 7 年 10 月 29 日	第 2 回「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会(オンライン)
令和 7 年 11 月 28 日	各団体への検討委員会案送付・意見照会(12 月 23 日〆切)
令和 8 年 1 月 27 日	第 3 回「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会(オンライン)
令和 8 年 2 月 5 日	各団体への検討委員会まとめを送付

3 これまでの「図書館と県民のつどい埼玉」（P37参照）

平成15年度に開催した「おはなしボランティアの集い」を翌年度に「子ども読書活動交流集会」として実施し、平成19年度にはそれまで行ってきた図書館講演会とあわせ、様々な企画を新たに加え「図書館と県民のつどい埼玉」として第1回を開催した。

第1回趣旨

「文字・活字文化振興法」の施行に伴い、地域における図書館の役割が改めて注目を集めている。

埼玉県図書館協会では、これまで県民向け図書館講演会を行うなど、県内における読書活動の普及に努めてきたところであるが、このたびの文字・活字文化の日（10月27日）制定を記念し、図書館サービスの一層の向上と読書活動のさらなる推進を図るため、県民とともに図書館のあり方を考える「図書館と県民のつどい埼玉2007」を、県教育委員会との共催により実施する。

なお、従来、県教育委員会との共催により実施してきた「埼玉県子ども読書活動交流集会」も、この事業の一環として行う。

第8回（平成26年度）から中学生・高校生を対象とした「ビブリオバトル（知的書評合戦）」を加え、第13回（平成31年度）からは中学生対象として「中学生のビブリオバトル」を開催している。

会場はさいたま市民会館、北本文化センター、桶川市民ホール・さいたま文学館などを使用し、第13回（平成31年度）からは桶川市民ホール・さいたま文学館を継続して使用している。

参加者は32,078人（第19回まで。第14回～第16回のオンライン開催を除く）を数え、第12回（平成30年度）以降は毎年度3,000人（オンライン開催を除く）を超える参加があったが、令和7年度は記念講演を中止し縮小開催とした結果1,121人の参加となった。

参加者対象のアンケート集計結果を見ると、記念講演はもとよりビブリオバトル、子ども読書活動交流集会もほとんどの方に満足いただいた。

第1回から企画委員に市町村職員、大学職員、高校職員の方などの参加をいただき、第13回からは主催団体代表を中心に企画等を行っている。

4 現状分析

(1) 参加者

【表1】に示されているように、アンケート回答者の9割以上が社会人や職を離れた方であり、その他（児童生徒・未回答）は1割未満である。

また、2023年度から図書館関係者という項目を設定したところ、2割程度であることがわかった。

記念講演参加者はアンケート回答者の8割程度を占めており、記念講演の実施が集客に大きく影響していることがわかる。

【表1】各年度アンケート結果集計 参加者数は延べ人数 ()は割合

年度	参加者数	回答数	住所地 (県内)	職業等		初めて	記念講演	
				社会人等	図書館関係者		参加(対回答)	満足
2024	3,096	380	228(89.9)	293(77.9)	74(19.7)	242(64.5)	300(78.9)	284(94.7)
2023	3,122	290	261(93.9)	198(70.2)	71(25.2)	165(57.9)	198(68.3)	168(84.8)
2019	3,457	242	214(88.4)	237(95.2)	—	143(57.2)	144(59.5)	130(90.3)
2018	3,013	270	244(90.4)	248(90.2)	—	146(52.7)	216(80.0)	188(87.0)
2017	1,999	214	214(100)	208(95.2)	—	92(42.6)	150(70.1)	138(92.0)

(2) 組織

過去2年間の展示等の準備や当日スタッフの状況を一覧とした。総合受付などつどい全体の運営スタッフ・事務局スタッフはほぼ県立図書館職員が対応していた。

市町村立図書館職員・小中学校職員はスタッフとしての参加が少ない。また、事務局からは「図書館と県民のつどい埼玉」事務局である県立熊谷図書館（企画担当）の事務量が相当に及ぶことが説明された。

【表2】スタッフ等の状況

	局・県立職員		市町村立職員		高校職員		大学等職員等		小中学校職員		ボランティア	
	実行委員	当日	実行委員	当日	実行委員	当日	実行委員	当日	実行委員	当日	実行委員	当日
2024 年度	13	31	5	3	19	20	9	18	1	-	4	2
	44		8		39		27		1		6	
うち運営スタッフ・事務局 県立職員 20人 高校職員 2人												
2023 年度	13	30	2	7	16	16	9	28	1	-	4	12
	33		9		32		37		1		16	
うち運営スタッフ・事務局 県立職員 24人 大学ボランティア5人												

(3) 会場

参加者の半数は南部地区が占めており、さいたま市は全体の約2割を占めている。

過去6年間を見ると63市町村のうち約6割の市町から参加があった。

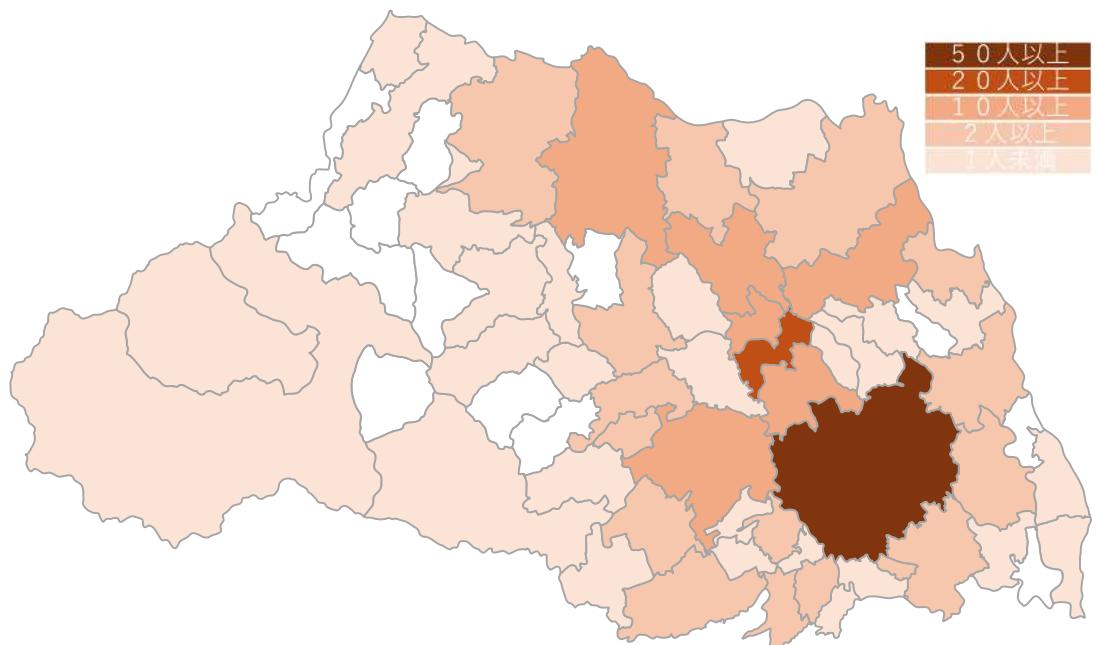
また、参加者の分布を見ると高崎線沿線に居住する方の参加が多い(図1参照)。

【表3】参加者の住所 地下段は割合 (%)

	回答数	県内 市町 村数	県内				県外	県内市町村			
			南部	西部	北部	東部		さいたま市	桶川市	熊谷市	久喜市
2024年度	365	45	190 52.1	54 14.8	34 9.3	50 13.7	37 10.1	84 23.0	28 7.7	18 4.9	16 4.4
2023年度	278	36	164 59.0	32 11.5	37 13.3	28 10.1	17 6.1	67 24.1	30 10.8	23 8.3	7 2.5
2019年度	242	37	130 53.7	28 11.6	21 8.7	35 14.5	28 11.6	46 19.0	23 9.5	14 5.8	8 3.3
2018年度	272	35	147 54.0	34 12.5	23 8.5	40 14.7	28 10.3	63 23.3	6 2.2	13 4.8	16 5.9
2017年度	214	41	114 53.3	38 17.8	17 7.9	37 17.3	8 3.7	41 19.2	15 7.0	9 4.2	11 5.1

※実施アンケートから

【図1 参加者の住所地 5年平均 オンラインを除く】



※実施アンケートから

(4) 予算

埼玉県図書館協会決算の約4割が「図書館と県民のつどい埼玉」の経費に充てられている。

「図書館と県民のつどい埼玉」に係る経費のうち記念講演・広報に係る経費が8割以上を占めている。

決算上の実質収支（繰越金を除く当該年度の収入から当該年度の支出を差し引いたもの）が令和6年度△247,331円となった。

【表4】埼玉県図書館協会決算（）：つどい事業に対する割合

	支出済額	総務費	研修事業費	つどい事業費				純収入額 (収入-繰越)	純収入額- 支出済額
				計	記念講演	広報費	その他		
2024 年度	2,314,490	391,900 16.9%	771,703 33.3%	1,011,233 43.7%	419,645 (41.5%)	435,788 (43.1%)	155,800 (15.4%)	2,067,159	△247,331
2023 年度	2,118,707	376,394 17.8%	657,423 31.0%	945,900 44.6%	392,265 (41.5%)	312,808 (33.1%)	240,827 (25.5%)	2,110,887	△7,820
2019 年度	2,203,768	403,653 18.3%	759,923 34.5%	854,236 38.8%	391,174 (45.8%)	251,305 (29.4%)	211,757 (24.8%)	2,092,830	△110,938
2018 年度	2,297,268	443,870 19.3%	796,654 34.7%	870,000 37.9%	389,784 (44.8%)	239,815 (27.6%)	240,401 (27.6%)	2,099,525	△197,743
2017 年度	1,964,673	423,407 21.6%	750,407 38.2%	703,907 35.8%	386,914 (55.0%)	136,512 (19.4%)	180,481 (25.6%)	2,104,782	140,109

5 委員からの主な意見

(1) つどい趣旨

(第1回)

「図書館と県民のつどい埼玉」は4つの趣旨をもって実施されている。4つ目の趣旨については2023年度から書店や出版社などの連携を図るために設定された。

委員からは展示等観覧者とのコミュニケーションにより、図書館サービスの改善に結びつくヒントをつかむことがあるという意見のほか、他団体等の構成員が展示等を見るなかで様々な情報交換が行われているという意見も出された。

また、つどい趣旨の2及び3については委員から肯定的な意見がだされた。

参考 図書館と県民のつどい埼玉 2025 趣旨

- (1) 県内図書館の様々な活動を県民に紹介することで、図書館に対する県民の理解を深め、親しみを持ってもらう。
- (2) 県民との交流を通じて、より良い図書館サービスを考える契機とする。
- (3) 県内の子供読書活動に携わる方々や、公共図書館・大学図書館・高校図書館等の協働により実施することで、図書館に関わる連携を深める。
- (4) 県民の読書環境がより豊かなものとなるよう、書店・出版社・新聞社など文字・活字文化を支える団体と図書館との連携を図る。

(2) ターゲット(参加者)

(第1回)

社会人等が9割以上を占めており、児童生徒の参加はほとんどない。

開催時期が12月であり、高校の定期考査の時期に重なることや中小学生が公共交通機関を利用して参加する難しさなどが委員から指摘された。また、展示内容は広く県民を対象にしたものが多く、児童生徒が魅力を感じるもののが少ないという委員からの指摘もあった。

そもそも記念講演実施の目的が集客であるという意見もだされ、記念講演を実施しなければ参加者が大幅に減少するであろうという意見も委員からだされた。

一方、社会人等の参加者がほとんどを占めているのは、記念講演をはじめ展示の内容や講座など、広く一般県民を対象としているからであ

ることも確認された。また、記念講演が集客の要となっており、記念講演以外の観覧者は少ないという認識も共有ができた。

(3) 組織

(第1回)

現状として記念講演や総合受付などの運営スタッフは埼玉県図書館協会の県立図書館職員が主に従事しており、その他の団体はほとんど従事していない。また、市町村立図書館職員や小中学校職員も企画などに携わっていない。

委員からは市町村立図書館は少人数で図書館運営をしているために多忙であるとともに、指定管理や委託などによりつどいに関わることが難しいという意見がだされた。また、小中学校職員については働き方改革や学校司書の委託により関わることが難しいという意見がだされた。

運営スタッフについては展示担当のシフトを調整することで協力が可能であるという意見がだされたほか、展示等の共同開催も企画を検討すれば可能ではないかという積極的な意見もあった。

(4) 会場

(第1回)

高崎線沿線の市からの参加が多いことが確認された。それからすると県東西で開催することで多くの県民の方に参加していただけるのではないかという考えもだされた。

現在の桶川市の会場は県中央に位置し比較的交通の便もよく、会場としても充実している。そのことから委員からは現在の会場で実施するメリットは大きいという意見がだされた。

また、オンライン開催についても協議したが、Webページ作成のための作業が膨大であること、期間限定で公開するのでは作業量に見合った効果は見込めないという意見もだされ、オンライン開催については各委員とも否定的であった。

(第2回)

高等学校・大学等での開催について議論された。高校では記念講演を実施するのは難しい。また、大学等を会場とするのは個々の施設管理者の判断による。なお、交通の便があまりよくない場合が多いが、記念講演等を開催することができる大学等はある。

(5) 予算

(第1回)

事務局からつどい予算は埼玉県図書館協会の総支出額の4割程度を占めており、一部繰越金を充当して協会運営している現状について委員に説明を行った。

協会予算の収支の均衡を図るために、つどい事業予算の8割程度を占める記念講演経費及び広報経費の削減を図る必要があるという問題について各委員に理解をいただいた。

記念講演については今までのように著名人を招致することは難しいのであれば、これからを期待できる作家などを依頼していくのはどうかという意見も出された。

また、広報経費については主催団体等の協力を得て削減に取り組みたいと事務局では考えているとの説明もあった。

(6) 開催頻度

(第2回)

隔年開催や3年ごととした場合、事務負担や予算については軽減が図れる。一方で3年ごととした場合、引継ぎ等の問題が生じ、運営に支障をきたす場合がある。実際に新型コロナウイルス感染防止対策でオンライン開催としたが、会場開催を再開したときは事務局も経験者がいなかつた。

記念講演については、毎年開催するとした場合、予算に勾配を付け3年に1回は著名人、その他は研究者とするなどの対応も可能ではないかという意見がだされた。

(7) 記念講演

(第2回)

事務局のみでの人選は困難であることが説明され、各団体の輪番制で人選を行いたいという説明がなされた。各団体からは人選による負担増、作家等とのつながりを持っている会員があまりいないことが確認された。

講演料については、学校などの教育関係での講演であればある程度安価で引き受けてくれるが、大きな会場となると高額になる場合が多

いという意見も出された。

また、委員から作家に限ることなく、例えばドラマの題材となつた著書の研究者・大学教授などにも対象を広げることで人選も容易になり講演料も抑えられるのではないかという意見が出された。

(8) その他

(第1回)

「中学生のビブリオバトル」については司会進行役の不足が課題となっている。大学では学生が司会進行役としてビブリオバトルを開催しているのでその協力が可能ではないかという意見がだされた

また、小中学校対象の事業が実施されていないことについては、あえて企画しても現状では参加は見込めないのでないかという意見が出された。

6 今後のつどい

「図書館と県民のつどい埼玉」は令和7年度で19回目を数え、令和8年度は20回の節目を迎える。

この間、多くの県民の方の参加を得て、盛況のうちに実施をしてこれた。また、各種団体が協力し、相互に刺激を受けて図書館サービスの改善のヒントを得た。

いままでの成果を踏まえ、様々な角度から検討・協議し、今後のつどいの方向性を検討した。

(1) ターゲット

ターゲットについては、現在、大人を対象として展示等を行っているが、児童生徒の参加については所々の事情により難しいことがわかっている。あえて児童生徒を対象とした企画を検討実施するのではなく、現在の内容を継続していく。

しかしながら、児童生徒の不読率が上昇していることは社会的な関心事となっていることを考えると公共図書館や高校図書館、大学図書館の魅力を発信することは重要であり、その認識をもってつどいに関わっていくことが望ましい。

(2) 組織

当日の運営スタッフについては、埼玉県図書館協会のうち県立図書館職員がほとんどを担っている現状からすると、他の主催団体も運営スタッフに関わるべきである。また、市町村立図書館職員は多忙などによりつどいに企画委員などのスタッフとして参加することが難しい現状がわかった。スタッフを募集するに際して多くの図書館が集まる会議等でつどいの企画などを説明することを検討する。

現在はそれぞれの団体が個別に企画・展示を行っているが、それぞれの知識と経験を生かして共同で行うことも県民にとって魅力的な展示の実現や各図書館のサービスの向上と職員相互のコミュニケーションの活性化という点から意義のあるものと考える。

(3) 会場

会場については、現在の会場（桶川市）は駅から近い、会場が充実している、共催を得ているなどの面からも利用を継続するメリットは大きいといえる。

しかしながら、県東部や県西部からの参加者は少なく、全県からの参加を促進することで、県中央の図書館以外の利用促進につながることも推察される。そのことから年度ごとに桶川市・県東部・県西部で開催していくべきである。

県東部や県西部の施設利用については予算の面や交通の利便性などの課題もあるため市町村教育委員会などとの調整を十分に行い、時間をかけて計画的に準備を進める必要がある。

(4) 予算

予算が埼玉県図書館協会の支出の4割を占めているのは当該協会の趣旨の実現には課題である。社会様式が多岐にわたり、図書館利用者のニーズの変化に対応した研修や調査研究を進めることが当該協会に求められている。

また、現在の規模のつどいを継続することは予算的に難しいことが明らかになった。

そこで、予算において大きなウェイトを占めている記念講演・広報についてはそれぞれ講演料の縮小、広報の主催団体等への協力要請により経費削減を図っていく必要がある。

(5) 記念講演

記念講演についてはその集客効果は大きく、実施することの効果は見込める。ただし、予算面での難しさが明らかになり、今までのような実施が困難であるのも事実である。

そのため記念講演は原則として毎年実施することとするが、講演者はこれから期待される作家や埼玉県ゆかりのある作家、児童文学作家、また、様々な分野の研究者など幅広く検討していくべきである。

なお、人選については企画委員会で計画的に検討していくべきである。

(6) 中学生のビブリオバトル

「中学生のビブリオバトル」については、関係団体から継続の強い希望があり引き続き実施することが望ましい。

また、決勝についてはつどいと同会場とし桶川市・県東部・県西部で実施する。なお、予選は、同一日に複数の会場を確保する必要があることから、別日での実施も検討する。

事前準備については埼玉県学校図書館協議会が中心となり、埼玉県図書館協会及び各団体に協力を仰ぎ進める。当日の司会進行については埼玉県大学・短期大学図書館協議会を通じて大学生ボランティアに依頼する。

(7) こども読書活動交流集会

「こども読書活動交流集会」については、埼玉県子供読書活動推進計画(所管 埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課)に掲げられた埼玉県の事業である。企画・運営については埼玉県立図書館が子供読書活動に関わるボランティア団体と連携して行っている。子供読書活動の推進には、公共図書館や学校現場が大きく関わっているので、引き続き予算面での支援を行っていく。なお、「こども読書活動交流集会」は記念講演との連携がなくても、参加希望の多い企画ではあるが、当該集会参加者がその他の展示に参加することは大いに考えられるのでつどいと同様に会場を設定するのが望ましい。

7 まとめ

「図書館と県民のつどい埼玉」を今後も引き続き、実施していくことは県民の図書館への興味関心の醸成と図書館サービスの向上に欠かせない。そのことから各主催団体等が相互に協力し継続して実施できるよう努めていくべきである。

ターゲットは現在と同じとしつつも、児童生徒が読書・図書館に触れる機会を増やすことも検討していく。組織は各主催団体で協力し、運営スタッフの分担、展示等の共同企画運営を行う。会場は桶川・県東部・県西部で開催することとするが、その準備には時間を要するので十分に検討する。予算については記念講演や広報の方法の見直しなどで削減を行う。

その他の事業等については前述のとおりである。

令和8年度に第20回を迎える「図書館と県民のつどい埼玉」において県民の期待に応えるためにも各種団体と職員相互の協力により成功することを祈念している。

8 アンケート実施結果

1 趣旨

「図書館と県民のつどい埼玉」は平成19年度から実施している県内最大級の図書館イベントです。現在、主催団体は埼玉県図書館協会、埼玉県教育委員会、埼玉県学校図書館協議会及び埼玉県高等学校図書館研究会、後援として埼玉県大学・短期大学図書館協議会の御協力をいただいています。18回を数え、運営方法等の課題も見えてきたため、主催団体等で構成する検討委員会を設置し、今後のつどいについて検討することとしました。主催団体等の職員の方の御意見を伺い、同検討委員会の協議の参考とするため、アンケートを実施いたします。

2 実施方法

Google Forms による回答受付 (Google Forms による回答が難しい場合は、Excel ファイルをメールで受領します)

3 対象

主催団体等構成員（個人）

4 回答締切

令和7年9月26日（金曜日）

5 回答数

192件

6 アンケート概要

(1) あなたの所属を教えてください

高校図書館	81	42%
市町村立図書館	50	26%
県立図書館	22	11%
大学・短期大学図書館	16	8%
小学校	9	5%
中学校	5	3%
類縁機関	4	2%
その他	5	3%
合計	192	100%

(2) あなたの役職・役割を教えてください

司書	125	主査	2
主任司書	5	教諭	7
司書主幹	3	校長	5
館長	6	その他	26
事務職員	8		
主事	5	合計	192

(3) 住所地又は所属の所在地（市町村名）を教えてください。

さいたま市	37	羽生市	4
久喜市	20	伊奈町	3
川越市	12	桶川市	3
熊谷市	9	行田市	3
越谷市	9	鴻巣市	3
上尾市	7	三郷市	3
本庄市	6	草加市	3
朝霞市	5	川口市	2
春日部市	5	鳩山町	2
坂戸市	5	東松山市	2
深谷市	5	吉見町	2
北本市	4	和光市	2
狭山市	4	その他	28
所沢市	4	合計	192

(4) 「図書館と県民のつどい埼玉」を知っていますか

知っている 180(94%) 知らない 12(6%)

(5) 「図書館と県民のつどい埼玉」に参加したことがありますか。 (N=180)

出展関係者・来場者いずれの立場でも参加したことがある	53	29%
出展関係者として参加したことがある	50	28%
来場者として参加したことがある	27	15%
参加したことがない	50	28%
合計	180	100%

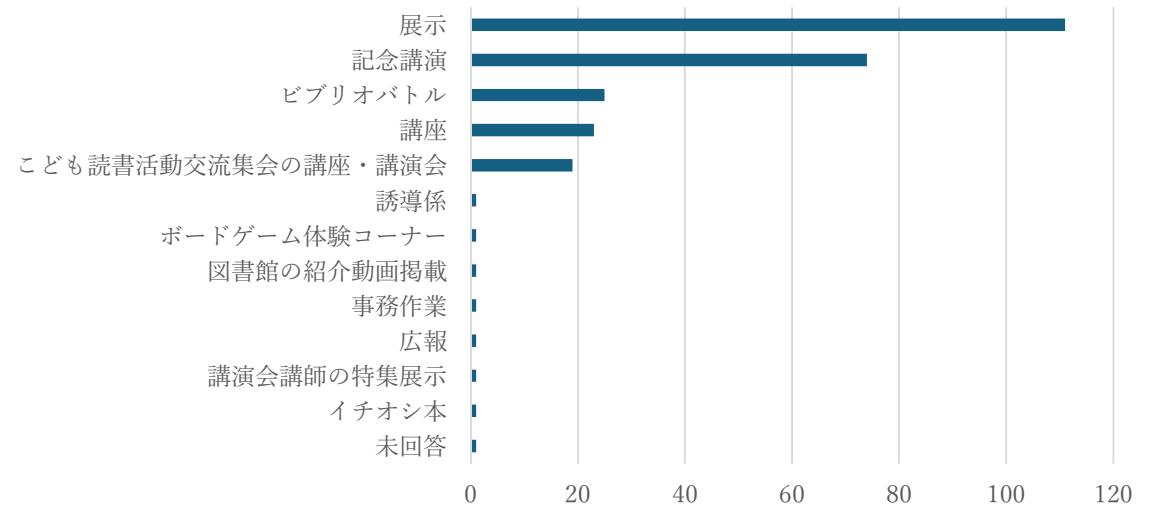
(6) これまでに参加した回数を教えてください

6回以上	22
2~5回	81
1回	27
合計	130

(7) 次のどれに参加しましたか。 (複数回答可)

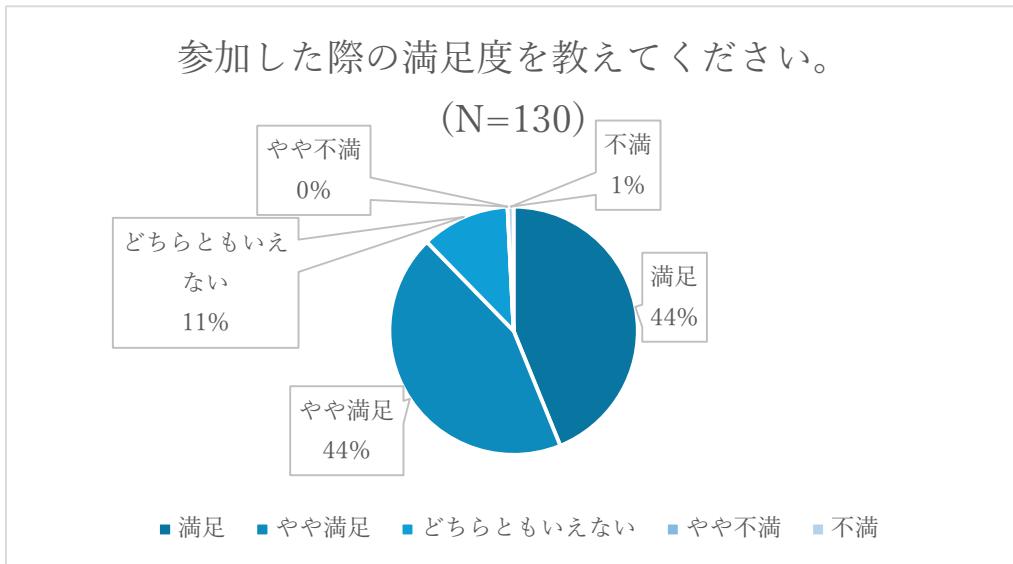
展示	111
記念講演	74
ビブリオバトル	25
講座	23
こども読書活動交流集会の講座・講演会	19
誘導係	1
ボードゲーム体験コーナー	1
図書館の紹介動画掲載	1
事務作業	1
広報	1
講演会講師の特集展示	1
イチオシ本	1
未回答	1

次のどれに参加しましたか。 (複数回答可) (N=130)



(8) 参加した際の満足度を教えてください

満足	57
やや満足	57
どちらともいえない	15
やや不満	0
不満	1
合計	130



【主な回答】

「満足」と回答した人の感想

- ここ数年は規模が縮小している印象を受けました。より多くの方に参加いただけよう、学校や地域での広報・チラシ配布など、宣伝を強化するとよいのではと思います。また、今年から著名人の講演がなくなったのは残念でした。参加のきっかけづくりとして、やはり魅力ある講師をお招きいただけようと盛り上がるのではないかでしょうか。
- 参加者の方は議事録にもあるように大人が多い印象でした。もっと生徒も来てくれるとより盛り上がるだろうと思います。個人的に毎年参加したい気持ちはあるのですが、参加できていない理由としては会場が遠いことが関係しています。
- 一般参加者の講演への熱量が高い。

- 関係者としてお手伝いした際は、自館では招致できないような著名作家に会えることや、その関連展示に参加できる楽しみがありました。また、参加者目線では、普段関わりのない大学や高校図書室の取り組みなどを知ることができ、とても参考になりました。
- 企画からチームでの準備が大変でした。会場設営が前日で、2日の出張が負担でした。
- 公共図書館、学校図書館、大学・類縁機関が一堂に会する機会は無いので、他機関の取り組みを知る良い機会だと思っています。参加すると勉強になりますし、横の繋がりも獲得できて日々の業務の励みに繋がります。
- 高校図書館のブースに参加しましたが、簡単な工作もあり小学生の子どもも楽しんでいました。ボードゲームのコーナーも自校で導入するための相談をしましたが、良い提案をいただけて実際に導入できました。
- 図書館業界に勤務する者として、同業又は関係者の取り組みや話を拝聴できる機会はなかなかないので、有意義な時間となりました。ただ、記念公演のみ参加する方や、他の講演や展示に参加する方も図書館関係者が多く、広く県民と交流する機会という印象はありませんでした。
- 展示のスタッフとして参加しました。公立図書館の職員や来場者に本の感想を書いていただき展示する方式だったのですが、協力して作り上げる感じが一体感を感じて好印象でした。

「やや満足」と回答した人の感想

- 展示に参加でしたが、展示を見に来る人は、ほぼほぼ記念講演を見に来た人で、展示目的で来てくれた人は展示スペースの来場者の1割もないのではないか？また、会場は、何かのついでに立ち寄るような場所・立地でもない。通りすがりに見つけて入ってみようというところでもない。せっかく準備をして作った展示もあまり多くの人に見てもらえていないのが残念だ。
- ビブリオバトルを小学生の娘を連れて見に行ったとき、楽しかったと言っていました。展示も手作りしおりコーナーの体験があって、図書委員会を担当していた私にとっても、アイデアをいただきました。
- 館種を超えた展示が見られるため、埼玉県の図書館のようすが良くわ

かるものとなっていた。

- 現状は、図書館関係者と作家さんの講演目当ての人が主な来場者であると感じている。今後はより広く県民に向けてイベントを行うのか、現在の参加者に合わせてイベントの内容を特化していくのか、方向が定まると、企画を立てやすくなるのではないか。
- 学校外のリアルな場で高校図書館をPRできる良い機会になっていると思った。
- 指示に従って準備や片付けをした。あっという間だった。
- 若い来場者は少ないと感じたマンネリ化。
- 出展の負担が大きい。
- 所属機関と異なる地域の方と交流ができたことがよかったです。
- 図書館の紹介動画として参加しました。作成時間を見たので大変でした。図書館利用（来館者数の増加）に繋がっているのか効果が不明であった。
- 図書館関係者としては満足しているが、一般県民としては不満がある。
- 大人と幼児は来場すれば楽しいけれど、宣伝不足に感じました。
- 忙しかった。

「どちらともいえない」と回答した人の感想

- 様々な機関が参加しており、面白かった。
- なぜ高校図書館が子供向けの体験企画を持っているのかわからなかつた。児童サービスを行っている図書館が担当するものだと思う。
- 記念講演が目当ての来場者が多く、それ以外の時間帯は手持無沙汰だった。
- 展示やビブリオバトルについて、関係者の割合が高く、一般の方が少ないように感じました。記念講演については一般の方が大半でしょうから、一般の方にとって展示やビブリオバトルは記念講演のおまけ程度としか見られていない気がしました。そういう意味で、本当に「県民のつどい」になっているのかは疑問が残りました。
- 土日に出なければならないのは負担。「代休が取れる」というが、生徒が学校に来る日に閉館にするのは本末転倒な気がする。

「やや不満」と回答した人=0人

「不満」と回答した人の感想

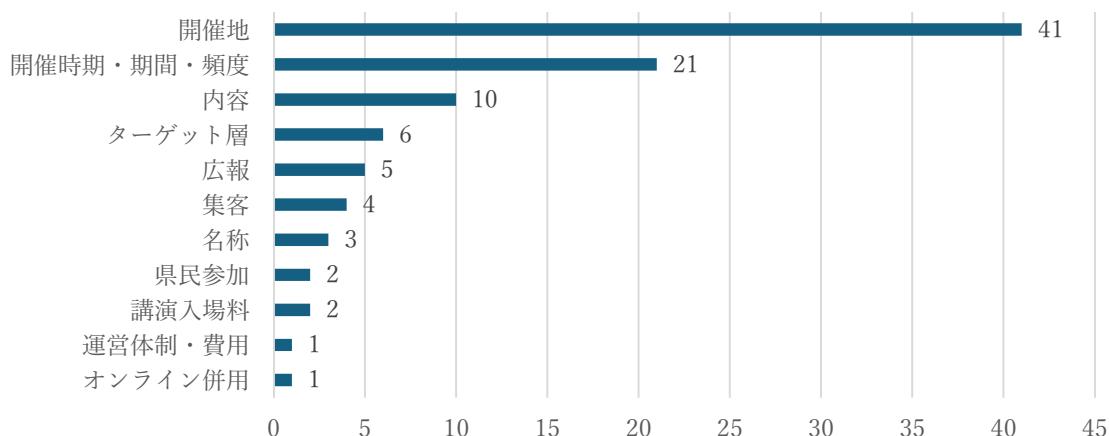
- 負担が大きい。

(9) 改善すべきことはありますか。 (複数回答可) (N=96)

開催地	41
開催時期・期間・頻度	21
内容	10
ターゲット層	6
広報	5
集客	4
名称	3
県民参加	2
講演入場料	2
運営体制・費用	1
オンライン併用	1

改善すべきことはありますか。 (複数回答可)

(N=96)



【主な回答】

開催地が遠い

- 北部の方々のことを考えれば、会場がさいたま文学館というのは仕方がないのかもしれない。ただ周囲に寄り道したくなる場所が無いので、図書館関係者以外で、何かのついでではなく、このイベントのために桶川に行くというのはちょっと…と思う人はいるのではないか。そういう意味で文学館は集客しやすい会場とは言い難いと思う。

- 会場が中山道沿線に固定されており、西部方面からは関心を持ちにくい。
- 会場が同じ地域なので別の地域での開催を希望します。
- 会場は、さいたま市できれば集客が多くなると思う。
- 開催場所を巡回させる。
- 勤務地は川越。会場が遠く、高校生に紹介しづらい。
- 県立図書館などの図書館を会場とした方が図書館をもっと知っていただけののではないかと思います。
- 図書館を会場にすればいいのにと前から思っていました。特に大学や高校、小中も学校図書館はなかなか一般県民が入れないので、入れるだけでレアな体験ができると思います。
- 每年同じ場所だと、来館しにくい方が一定数うまれてしまうよう思う。
- 様々な地域の会場で開催されれば、近隣の一般県民が参加しやすく、図書館をより身近に感じられる機会になるのではないかと思います。

開催時期が悪い

- 「児童生徒の参加はほとんどない」とのことですが、中高生にも参加してもらいたいのであれば、期末考査と重なる日程にならないようにすべきだと思います。
- 例年の時期だと、中高生は期末考査の期間であり、来場は難しい。
- 毎年開催ではなく、隔年開催にするのは難しいでしょうか？
- 準備にかかる労力に対し、1日1会場のみでの開催であることがもったいないように思う。講演会やビブリオ、講座などはともかく、展示は巡回展示など県内の複数個所で、ある程度の期間展示できればよいと思う。

ターゲット層

- ターゲット層がかなり限定的に感じる
- 記念講演は一般利用者にとって興味が沸きそうですが、逆に言えばそれ以外は興味がなさそうなのが残念です。学生や若者向けでもっと興味を持ってくれそうなことを考えるべきでは？
- 子供から高齢者まで楽しめる、多様な図書館のお祭りとしての楽しさ

が続いて欲しい

- 展示について、様々な体験コーナーが設けられていたが、いまいちターゲット層が分からなかった。労力を割いてそれらの体験コーナーを運営するくらいなら、いっそ展示のみにしてしまってもよいのではと思った。
- 良くも悪くも中高年の方しか来てない。若者が来てくれるようなプログラムも欲しい。
- 若年層が来にくいくらいと思います

広報

- より広く県民に向けて実施するのであれば、県内各地からアクセスしやすい会場の設定や、広報の拡大（SNS を頻繁に活用する等）が必要であると感じる。逆に、現状の企画は図書館関係者向けのものが多いので、そこに特化するなら、図書館員向けの媒体での広報をするべきである。
- 県民に対するアピールが弱い。関係者向けだと感じた。

運営体制・費用

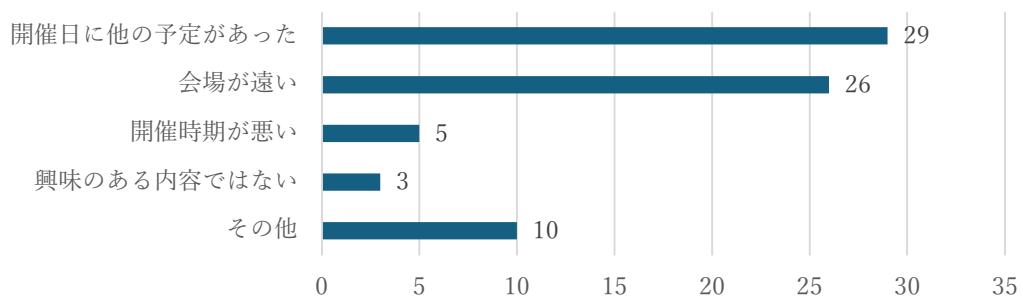
- 以前実行委員を経験した立場からすると、担当する職員の負担が大きい。このイベントに労力を割くことは働き方改革逆行しているのではないかと思う。
- 規模と運営体制が釣り合っていない
- 前任者が担当に入っていて負担が多く大変だったと聞いている
- 一日だけイベントに労力がかかりすぎている

(10) 参加しない理由を教えてください（複数回答可）(N=50)

開催日に他の予定があった	29
会場が遠い	26
開催時期が悪い	5
興味のある内容ではない	3
その他	10

参加しない理由を教えてください（複数回答可）

(N=50)



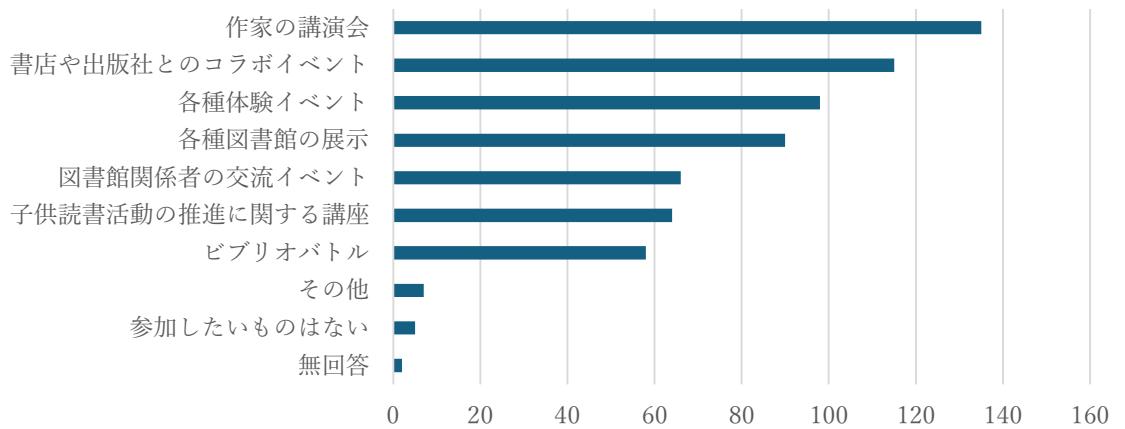
その他の内容

- 自館が通常開館しているため、業務優先。
- マンパワー不足により参加ができません。
- 職員の人数が少なく、派遣が難しい。
- 開催日に他の予定があった；人員の余力がないため。
- 自館の運営職員が不足してしまうため。
- 自館の仕事が忙しいため。
- 通常のイベントも多く、業務多忙のため。また、そのための予算等もとっていないため。
- 業務多忙によること、家族サービスのため。
- 子どもが小さいので日曜日に家をあけることができない。
- 展示するような資料を所蔵していない。

(11) 図書館関係のイベント（参加無料）で参加したいと思うものを選んでください。（複数回答可）(N=192)

作家の講演会	135
書店や出版社とのコラボイベント	115
各種体験イベント	98
各種図書館の展示	90
図書館関係者の交流イベント	66
子供読書活動の推進に関する講座	64
ビブリオバトル	58
その他	7
参加したいものはない	5
無回答	2

図書館関係のイベント（参加無料）で参加したいと思うものを選んでください。（複数回答可）(N=192)

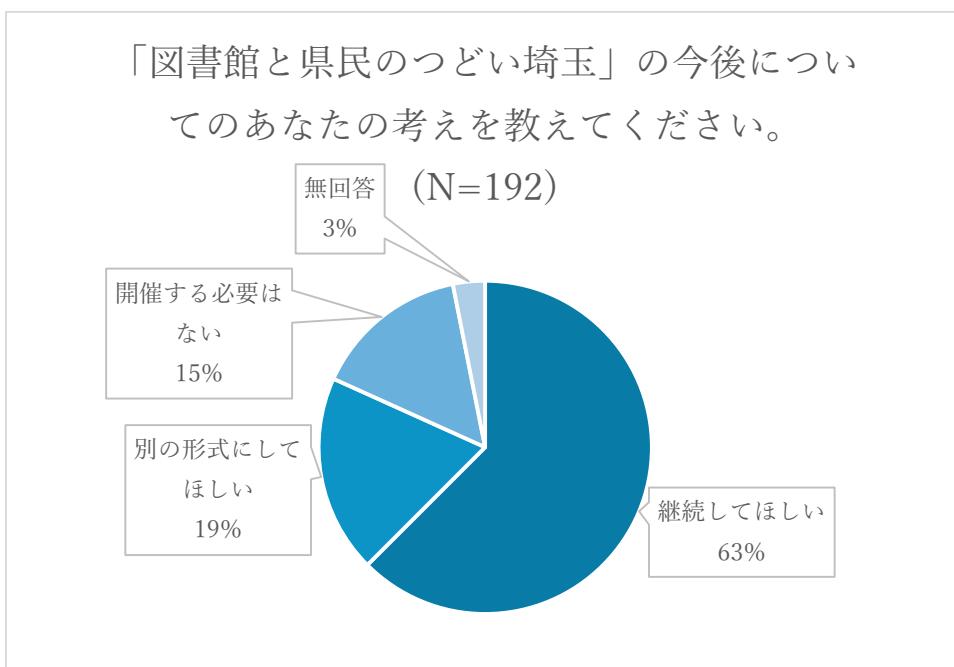


その他の内容

- ほかの所員に勧めたい企画がない。
- 資料の修理と保存に関するイベント。
- ボードゲーム、テーブルトークRPG。
- 県内図書館の「我が図書館のイチオシポイント」合戦。
- 「図書館とゲーム」のアクティビティ。
- 読書会など、一般の方が参加し対話・交流できる本を用いたアイスブレイク・ワークショップ。
- 図書館で活動している住民（友の会などの団体、個人利用者）の展示・活動報告、住民同士の交流イベント。

(12) 「図書館と県民のつどい埼玉」の今後についてのあなたの考え方を教えてください。

継続してほしい	120	63%
別の形式にしてほしい	37	19%
開催する必要はない	29	15%
無回答	6	3%
合計	192	100%



「別の形式にしてほしい」の主な意見

オンライン(11)

- 関係者向けにするのであれば、記念講演を無くして、会場の規模を縮小＆オンライン化を進めた方が参加しやすいと思う。一般県民向けにするのであれば、県立長野図書館のラボ・カフェのように、図書館について県民も関係者も交えて気軽に語り合える場がほしいが、それは各図書館でやるべきことのような気もして、埼玉県図書館協会の事業として適切なのか判断がつかない。
- 講座はオンライン形式にする。埼玉県西部地区にとって桶川は遠い。
- 新型コロナウイルス感染拡大期間に行われたオンラインでの開催を

活用していくとよいのではと考えている。

- 対面のイベントは基本的に不要。
- すでに各市町村立図書館で独自のイベントを企画しており、市民は地元で参加できる
- 県が参画するなら、例えば各市町村のイベント情報を集約したプラットフォームを構築するのはどうか。
- 広報は SNS を中心に。
- ビブリオバトル、大会形式が盛り上がるのであれば県大会をオンラインで開催はどうか。

開催頻度削減(4)

- 規模は縮小し、テーマを毎年（又は3年間程度）設けて開催する。
- 業務量や金銭的な事情から、今までの内容での毎年の実施が難しいことは存じております。しかしながら、県外の図書館に勤めていた頃にも司書内で注目していた貴重なイベントであり、県民にとっても多様な図書館に触れる機会であるかと思うので、例えば4年に1回（3年に1回）等、頻度を減らしての開催はどうでしょうか。
- 毎年開催でなくとも良いかなと思います。（2年に一度など）
- どちらかというと「継続してほしい」に近い意見です。ただし、基本業務（各館でのサービス）を安定して行えることが前提です。今年度のように、講演会やビブリオバトルなどの大きなメニューをお休みしたり、隔年にしたりできるとよいと思います。実施の目的が図書館について知ってもらう、地域の読書環境の維持向上にかかわってもらう、ということであれば、巡回展のように、東西南北の市町村立図書館や公民館、書店等を会場にしながらゆっくり展開していく、などの方法もあろうかと考えております。

開催地(2)

- 開催するならもっと交通の便のよいところにしてください。
- 今までと同じ形での開催が難しいとしたら、開催頻度を調整する・県民が足を運びやすいところを開催地とする（毎回固定でなくとも良い）などの工夫をしてほしい。現状、手間や時間はかなりかかるのに参加者が少なく、残念に思う。

講演会のみ(2)

- 県民の関心が高い「作家の講演会」を継続してほしい。今年度のように各種図書館の展示や講座だけでは県民の参加は厳しいと感じる。

図書館を会場(2)

- 「図書館と県民のつどい」と謳っていながら会場が図書館でない場所で開催されている。「図書館と県民を繋ぐ」というのであれば、「図書館」を会場にすべきではないか？公共図書館の中央館規模のところであれば、視聴覚ホールや集会室が併設されているはずである。そこに収まる程度のイベントや講演会を行えば良いのではないか？会場が狭くなる分、開催日を一日だけに限定せず、複数日イベント開催日を設定して、交代で展示や講演会、講座等を行えば、これまで参加してきた団体すべてが展示にも参加可能だと思う。開催地の地域の住民が、普段使っている地域の図書館を通して、県内図書館のさまざまなサービスや展示に触れることで、本当の意味で「図書館と県民を繋ぐ」ことにはならないか？
- 規模を縮小し、各市町村立図書館を会場にする形式。

分散開催(2)

- 隔年で集約型のつどいと分散型のつどいを開催するなどしても良いと思う。分散型の場合はターゲットを従来とは違う若年層に設定して、わざわざ足を運ばずとも別の図書館のことが知れる展示や共通のミニ体験（テンプレートで作れるしおりなど）を期間を定めて同時に実行するとよい。例えば、市町村教育委員会に協力を依頼して、各小中学校図書館に自校図書館のアピールポスターを作成してもらい、DL可能にして小学校で中学校のポスターを、中学校で高校の、高校で小学校（又は大学か公共）の、公共で近隣校の展示をしてコーナーを設けてもらえば、全県である程度の一体感は生まれるのではないでしょうか。可能であれば「あなたの学校の図書館のおすすめポイントを教えて！」という風に各校で軽く集めて、つどいSNSで発信できるとなお良いと感じる。つどいと呼べるのか？という点はありますが、交通網に左右されず、負担もかなり分散されると思います。

- 複数箇所で少しづつ時期をずらして開催など、展示中心なら可能なのでは？体験も人気だと思うので、そのコーナーを設置するのは週末のどちらかにするなどして。展示は作成した団体から数名、会場から一名など出てもらえば、人数は絞れると思います。ただ、これは講演会がない場合、あるいはあっても同会場同日に展示が開催できない場合の形式です。

規模縮小(1)

- 毎年一から展示の企画を考え、準備するのが大変負担でした。高校図書館独自の展示をなくして、全体の企画（講演等）の運営に必要な人員を確保するための参加くらいにできるとありがたいと思います。

その他(10)

- 部会別でそれぞれ内容を考えるのではなく、館種を越えて一緒に作りあげられるものを考えた方がよい。
- 作家の講演会はぜひ行ってほしい。展示は負担がある。「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」等のテンプレートが決まった小さな展示くらいに留めてほしい。
- 記念講演会とビブリオバトルのメインイベント2本のみに絞り、事務局の負担を少しでも減らすことができればよいと思う。
- 講演会は有料でもよいのではないかでしょうか。
- 今年から作家さんの講演会がなくなり、集客が厳しいことが予想されます。図書館関係者をターゲットした会に変更するなら、展示は無しで講座と交流会に絞って「県民のつどい」という名称は変えた方がいいかと思います。一般県民にPRするなら、図書館とは関係ない別のイベントと一緒に使う等の大幅な変更が必要ではないでしょうか（こう書くのは簡単ですが、実際やるのは大変ですね…）。
- 体験や参加型の企画を中心とした内容で実施して、1日ではなく数時間でもよいのではないかと思います。
- 財政面の問題や、関係者の準備の負担（高校図書館部会多くの実行委員を出し、校務の傍らで時間を割いていますので）の軽減といったことも必要かと思いますので、これまで通りの形式が難しいのであれば、展示中心の企画でもよいように思います。展示であれば、例えば

2週間など一定の期間置かしてもらう必要はあるかと思います。ただ、埼玉には多くの図書館や司書がいるので、これをアピールしていく必要はあると思います。

- 集合方式以外に期間を設け、団体がそれぞれ取組みを行うなど。また、各団体が行う企画などへのサポートや補助金支給など。
- 図書館関係者が未来志向になれる、それぞれが主人公となって楽しめるものであってほしいです。司書による伝説のレファレンス紹介とか、最高の読み聞かせ体験とか、各種業界とのコラボ紹介とか。図書館に関係する漫画や本とのコラボは、行きたい。「こんな図書館があったらいいな」案コンテストも、幅広い層から募ってみたい。夢があるイベントなら、行きたくなります。

(参考)

○ 検討委員会要綱

「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会 設置要綱

埼玉県立図書館

埼玉県図書館協会

埼玉県学校図書館協議会

埼玉県高等学校図書館研究会

(設置)

第1条 「図書館と県民のつどい」の令和8年度以降の実施及び内容を検討するため、「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- 一 趣旨及び事業内容に関すること。
- 二 実施会場に関すること。
- 三 経費に関すること。
- 四 その他必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

- 2 委員長は、埼玉県図書館協会事務局長をもって充てる。
- 3 副委員長は、埼玉県学校図書館協議会、埼玉県高等学校図書館研究会選出委員を持って充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 委員は、各団体等からの推薦に基づいて選出する。

(運営)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員は、会議を欠席する場合は代理の者を出席させることができる。代理の者の出席をもって当該委員の出席とみなす。
- 3 委員長は、必要に応じ会議に委員以外の者の出席を求め、意見及び説明を聴取することができる。

(事務局)

第5条 委員会の事務局は、埼玉県図書館協会事務局に置く。

- 2 事務局に事務局長を置き、埼玉県図書館協会事務局次長をもって充てる。
- 3 委員会の庶務は、事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年7月16日から施行する。

別表

「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会名簿

	選出団体・役職	氏 名	備 考
委 員 長	埼玉県図書館協会事務局長 (埼玉県立熊谷図書館副館長)	川目 晴久	
副委員長	埼玉県学校図書館協議会会長 (三郷市立彦糸中学校長)	滝沢 慎	
副委員長	埼玉県高等学校図書館研究会 (埼玉県立常盤高等学校主任司書)	佐々木 美和子	
委 員	教育総務部生涯学習推進課主任	須貝 俊	
委 員	蕨市立図書館主査 (埼玉県図書館協会)	小河原 充	
委 員	埼玉県大学・短期大学図書館協議会 (聖学院大学総合図書館専任司書)	中山 浩二	
委 員	埼玉県立白岡高等学校司書 (ビブリオバトル実行委員会)	杉本 太志	
委 員	埼玉県立熊谷図書館司書主幹 (公共図書館部会)	大島 恵津子	
委 員	埼玉県立久喜図書館司書主幹 (こども読書活動交流集会)	神原 陽子	
事務局長	埼玉県図書館協会事務局次長 (埼玉県立熊谷図書館司書主幹)	山縣 瞳子	
事務局	埼玉県図書館協会書記兼専門員 (埼玉県立熊谷図書館担当課長)	飯島 俊	
	埼玉県図書館協会専門員 (埼玉県立熊谷図書館司書)	川上未来	

○ 図書館と県民のつどい埼玉 2025 趣旨

- 1 県内図書館の様々な活動を県民に紹介することで、図書館に対する県民の理解を深め、親しみをもってもらう。
- 2 県民との交流を通じて、より良い図書館サービスを考える契機とする。
- 3 県内の子供読書活動に携わる方々や、公共図書館・大学図書館・高校図書館等の協働により実施することで、図書館に関わる連携を深める。
- 4 県民の読書環境がより豊かなものとなるよう、書店・出版社・新聞社など文字・活字文化を支える団体と図書館との連携を図る。

○これまでの「図書館と県民のつどい埼玉」開催状況

第1回 平成19年10月27日（土） さいたま市民会館うらわ

記念講演 「私の読書と子どもの読書」 講師：長谷川 摂子氏（絵本作家）
6分科会 公共図書館・大学図書館・高校図書館・子ども読書活動交流集会
実技指導 製本入門
展示 示 図書館ネットワークをテーマにした図書館サービスについて
のべ参加者数：696人

第2回 平成20年11月1日（土）

さいたま市民会館うらわ

記念講演 「しあわせな時」 講師：中川 李枝子氏（児童文学者）

子ども読書活動交流集会 1～4

さいたま市浦和コミュニティセンター（午後のみ）

展示 示 公共図書館・大学図書館・高校図書館
実技指導 製本入門
リサイクル 図書のリサイクル
のべ参加者数：1, 513人

第3回 平成21年11月28日（土）

さいたま市浦和コミュニティセンター／さいたま市立中央図書館

記念講演 「うたが生まれるとき」 講師：工藤 直子氏（詩人・童話作家）
子ども読書活動交流集会 1～4
展示 示 公共図書館・大学図書館・高校図書館
実技 製本講座
のべ参加者数：1, 730人

第4回 平成22年10月2日（土） さいたま市文化センター（国民読書年記念）

記念講演 「本と出会う楽しみ 再会する喜び 知り合う深さ」
講師：落合 恵子氏（作家）

子ども読書活動交流集会 1～4

展示 示 公共図書館・大学図書館・高校図書館
のべ参加者数：1, 751人

第5回 平成23年11月5日（土） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「いま、若者に伝えたいこと」

あさのあつこ先生と中高生のトークセッション

講師：あさの あつこ氏（作家）

子ども読書活動交流集会 1～4

展示 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：1, 598人

第6回 平成24年12月2日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「本との旅路 —これまでと、これから」

講師：上橋 菜穂子氏（作家）

子ども読書活動交流集会 1～4

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：1, 842人

第7回 平成25年12月1日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「読むこと、見ること、生きること—文学／アートの出会い」

講師：原田 マハ氏（作家）

子ども読書活動交流集会（絵本講座、わらべうた講座、科学読み物講座）

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

特別展示 日本最大の図書館蔵書検索サービス「カーリル」

図書館海援隊サッカーチーム

のべ参加者数：1, 694人

第8回 平成26年12月14日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「フィクションの向こう側—小説家という仕事について」

講師：辻村 深月氏（作家）

ビブリオバトル 中・高校生による知的書評合戦

子ども読書活動交流集会

（子どもと詩の講座、わらべうた講座、科学読み物講座）

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：2, 389人

第9回 平成27年12月13日（日）さいたま市民会館うらわ

記念講演 「こうして小説を書いている」 講師：荻原 浩氏（作家）

ビブリオバトル 中・高校生による知的書評合戦

こども読書活動交流集会(報告と交流、わらべうた講座、科学読み物講座)

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：1， 408人

第10回 平成28年12月18日（日）北本市文化センター

記念講演「それでもやっぱり小説は面白い！」

僕が好きなとおきの本について語ろう」

講師：石田 衣良氏（作家）

ビブリオバトル 中・高校生による知的書評合戦

こども読書活動交流集会(報告と交流、わらべうた講座、科学読み物講座)

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：1， 479人

第11回 平成29年12月17日（日）桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「図書館とわたし」 講師：柚木 麻子氏（作家）

ビブリオバトル 中・高校生による知的書評合戦

こども読書活動交流集会(報告と交流、科学読み物講座、読み聞かせ講座)

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：1， 999人

第12回 平成30年12月16日（日）北本市文化センター

記念講演 「朝井リョウの図書館ラジオ～質問にひたすら答えます～」

講師：朝井 リョウ氏（作家）

ビブリオバトル 中・高校生による知的書評合戦

こども読書活動交流集会(報告と交流、わらべうた講座、読み聞かせ講座)

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：3， 013人

第13回 令和元年12月15日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「本と埼玉と私」 講師：須賀 しのぶ氏（作家）

ビブリオバトル 中学生による知的書評合戦

こども読書活動交流集会（報告と交流、わらべうた講座、読み聞かせ講座）

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館

のべ参加者数：3, 457人

第14回 令和2年12月14日～令和3年1月11日 オンライン公開

記念講演 「ことばの力」（動画公開） 講師：重松 清氏（作家）

こども読書活動交流集会（わらべうた講座動画公開、子供向け工作動画公開）

展示等 公共図書館・大学図書館・高校図書館・みんなで作る！重松清展
(写真オンライン公開)

のべ参加者数：640人（動画視聴数）

第15回 令和3年12月11日～令和4年1月10日 オンライン公開

記念講演 「『雲を紡ぐ』に込めた想い-人生に無駄な寄り道なし-」（動画公開）

講師：伊吹 有喜氏（作家）

講演会「絵本と鳥の巣の不思議-鳥の巣が教えてくれること-」（動画公開）

講師：鈴木まもる氏（作家）

ビブリオバトル 中学生による知的書評合戦（オンライン）

司書が語る！Live イベント

担当の司書が番組毎に設定したテーマに沿って Live 配信

司書が魅せる！WEB 展示 各部会による WEB 展示、若手司書紹介など

のべ参加者数：1, 708人（動画視聴数）

第16回 令和4年12月10日～令和5年1月31日 オンライン公開

記念講演 「家康に学び、江戸に学ぶ」(Live配信、後日配信)

　　講師：門井 慶喜氏（作家）

講演会 「自然はふしげがいっぱい！」

　　-好奇心をかくたてる身近な自然との向き合い方ー」

　　(Live配信、後日配信)

　　講師：高柳 芳恵氏（絵本作家、サイエンスライター）

中学生のビブリオバトル決勝 (Live配信、後日配信)

司書が語る！Liveイベント

　　担当の司書が番組毎に設定したテーマに沿ってLive配信

司書が魅せる！Web展示イベント 各部会によるWEB展示

のべ参加者数：1, 543人（動画視聴数を含む）

第17回 令和5年12月10日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「図書館で夢を見る」(後日配信あり)

　　講師：中島 京子氏（作家）

中島京子氏 著書サイン会

中学生のビブリオバトル決勝 (後日配信あり)

こども読書交流集会（学校図書館講座、読み聞かせ講座）

こどもの本のひろば（おはなし会、工作会、展示）

展示 公共図書館・高校図書館・大学図書館・協賛企業

のべ参加者数：3, 122人（後日配信視聴数 268人）

第18回 令和6年12月8日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

記念講演 「読書ときどき執筆の日々」(後日配信なし)

　　講師：万城目 学 氏（作家）

中学生のビブリオバトル(令和6年11月14日(木)県庁オープンデー)

こども読書交流集会(出版社が紹介！おすすめの児童書2024、紙芝居基本講座)

展示 公共図書館・高校図書館・大学図書館・協賛企業

のべ参加者数：3, 266人

第19回 令和7年12月14日（日） 桶川市民ホール／さいたま文学館

中学生のビブリオバトル

こども読書交流集会（わらべうた実践講座、学校図書館講座、こどもの本のひろば）

謎解き（謎の手紙と失われた思い出）、ブックケア講座

展示 公共図書館・高校図書館・大学図書館・協賛企業

のべ参加者数：1, 121人

○「図書館と県民のつどい埼玉2025」参加者アンケート結果

◆アンケート回答数 紙 118 Microsoft Forms 19 計 137

◆参加者住所地

県内 119(99.2%) 県外 1 (0.8%) ※東京都
南部 64(53.3%) 西部 22(18.3%) 北部 16(13.3%) 東部 17(14.2%)
さいたま市 29(24.2%) 川越市 12(10.0%) 熊谷市 11(9.2%) ※上位3市

◆職業

社会人 41(31.1%) 図書館 35(26.5%) 小中学生 12(9.1%)
高大4 その他 40

◆「つどい」が毎年行われていることを知っていましたか

知っていた 81(61.4%) 知らなかった 51(38.6%)

◆「つどい」に参加されたのは、はじめてですか

はじめて 70(52.2%) 2～5回 46(34.3%) 6回以上 18(13.4)

◆「つどい」をどこで知りましたか？【複数回答可】

ポスター・ちらし 53(34.9%) 友人・知人 24(15.8)
彩の国だより 14(9.2%) ※上位3つ

◆当日までにポスター・チラシをどこで見ましたか【複数回答可】

図書館 75(53.6%) 公共施設 8(5.7%) 県庁 5(3.6%) ※上位3つ

◆満足度

満足 59(46.5%) やや満足 52(40.9%) やや不満 6(4.7%) 不満 1(0.8)

**「図書館と県民のつどい埼玉」検討委員会
令和8年1月27日**

事務局 埼玉県図書館協会（埼玉県立熊谷図書館）
〒360-0014 熊谷市箱田 5-6-1
電話 048-523-6291
Fax 048-523-6468



図書館と県民のつどい埼玉 <https://www.sailib.net/tudoj>